

会報

かけはし

(題字 支部長 神山則幸)

令和 4 年 11 月 1 日

第 61 号

発行者
神山則幸

こんな時だからこそ

副支部長 小川 廣徳



昨年末一週間程入院をした。その際多くの看護師さんにお世話になった。その時の指導教官が、看護師の志望者が減り続けていることを危惧していた。特に入院施設のあ

る病院では不規則な勤務の上、新型コロナウイルス流行による業務負担も加わり看護師不足となっているようである。しかし、こんな時に入学してくる人たちからは、その強い使命感が伝わり、指導にも力が入るとのことであった。

人生の幸福度を上げる

川口班 小田長 幹夫



人生の幸福度を上げるには、という記事を目にした。いくつかのポイントがある中で、その妨げになることとして、「人に与える」意識がないこと、自由時間が長過

しまう。退職後たまたま、ある看護師養成学校の実習の様子をテレビで見

翻って、教育界は。教員志願者数の状況は、先の看護師不足と同じ様相を呈する。本県の採用試験でも、小学校の倍率はここ数年三倍に届かず、本年度は二倍ぎりぎりとのこと。教員の負担増が志願者減の理由として語られ、その意味では、今進められている働き方改革に加え、処遇改善の必要性を感じる。

三倍を割るとその資質の点で心配が生じると言われるが、このよ

うな中で志望し、晴れて採用された方たちには、その時の思いを土台に、更に研鑽を積んで、周囲の不安を払拭するよう願うとともに、児童生徒と真摯にかかわり、その成長に直に触れることのできる喜びに浸ってほしいと思う。

ざることがあげられていた。仕事にも何にも縛られない自分だけの自由な時間は充実した人生を送るうえで不可欠なものだ。しかし一方で、自由な時間が長過ぎてかえって幸福度が下がってしまうという。今、自分が仕事を続けているの

はこれだと再認識した。誰かの役に立っていると感じられることが日々の充実感につながっている。退職後、教育相談の仕事に就いて十年が経過した。諸々の相談業務の中心は不登校対応である。学校の現場はコロナ禍への対応や、山積する新たな教育課題で多忙を極めている。不登校についても先生方は頑張っている。が、その数は減らない。登校しづりや体調不良などを訴える不登校予備軍の子供はさらに増えている。

不登校の要因として、本人が抱えている発達課題等への支援が十分でないこと、今の学校システムが個別の対応に追いついていけないこと、家庭の環境調整の支援体制が停滞していることがあげられる。社会環境の激変や子供の気質の変化等から生じる不登校は、現代社会の縮図である。「ああすればこうなる」という公式は見つからない。不登校への取組は、その解消にとどまらず、社会や学校の変革につながる重要な課題だ。相談員としてのスキルを高め、子供の幸福度を上げるよう日々努力していることが自身の幸福度を上げることに繋がっている。

会員短 信

学習支援を通して

川口班 川邊 秀明

退職して八年目となるが、まだ教育に携わる日々を過ごしている。小学生の算数学習の支援をしているが、もはや「昔取った杵柄」は通用しない。学習指導要領の変化を感じる。しかし「長年の経験」は役に立つ。繰り下がりのある引き算は、低学年の児童にとつては越えなければならぬハードルである。昔も今もあまり変わらない。計算はできるが意味の分からない子も多い。説明してあげるとニコッと笑う。子供たちと接する幸せを感じるひと時である。

さて、何を為すべきか

朝霞班 大久保 昭男

教育行政の長を三月末に退任して、これまでの忙中から心長閑の中で残生に思いを巡らせている。

私は多趣味であるが、残念乍ら何れも不完全である。定年後の陶芸三昧の生活を夢見て、五十代前半に信州の山中に設けた陶芸窯もこの間、窯焚きのゆとりもなく歳月が流れた。先日、十数年ぶりに

窯の炎を見ながら時を過ごし、もう少し究められればと思つた。あとは、地元自治体の委嘱による社会教育の振興に、自らのスキルを活かし貢献したいと思つている。

先輩から学ぶ

草加班 青柳 晃一

退職後の五年間は、市教育委員会で学校支援指導員として、学校の諸課題に対して側面から支援する仕事をさせて頂きました。昨年より職を離れ、現在は、毎日を気ままに過ごしています。退職校長会の先輩の勧めで始めたゴルフと読書会は、生涯スポーツ、生涯学習の観点で人生に潤いを与えてくれていきます。現職の時だけでなく退職後も先輩から学んでいます。コロナの終息、日日是好日を願いつつ、人生の三学期を実りあるものとしていきたいと思ひます。

学校が背負うもの

川口班 奥田 昌史

県教員養成セミナーで先生を目指す若者達を前に、学校におじゃまして自分の稚拙な教育実践を語っていると、先生方は本当に大変なのだろうと思える場面に多々出くわす。子どもたちも一生懸命に学んでいて、不易流行とはいうも

の、コロナ禍への対応、ICT授業、猛暑でのプール授業中止等、教えることの多さと厳しさにただただ愕然するばかりである。現場で頑張っている先生方が充実した毎日を送れるように願うばかりである。

ノルディック 爽快!

蕨・戸田班 古澤 立巳

二本のストックを体の後方に振って歩くノルディックウォーキングを始め、十年が過ぎました。早朝ウォーキングは、住まいのある富士見市の勝瀬ツ原をスタートして弁天の森から三芳野の台地へと向かいます。一時間半ほどの二市一町をまたぐコースは、季節の移ろいとともに様々な表情を見せてくれます。毎年訪れる南房総の海岸を、潮風に包まれて爽快に歩くこともあります。脚力向上と背筋への刺激、新たな風景との出会いから私の一日が始まります。

新たな挑戦の日々

川口班 伊東 博

65歳になった三月末日をもって42年間の教職の仕事から完全に退職しました。現在は、新たな挑戦をしようと思ひ、今までやれなかつたこと、できなかつたことをや

世界に羽ばたく 人材育成をめざして

川口市教育委員会教育長

井上 清之



世界的なパンデミックの影響により、従来にはない様々な教育活動が試行されている昨今、本市では、市独自のグローバル教育事業を展開しております。そこで今回は、主に中学校における本市の取組について紹介します。

まず、今年度新たな試みとして、

本市の友好都市であるアメリカ・フィンドレー市の図書館と、読書体験を通じたオンライン意見交換会を開催しました。これは英語科教員の研修として実施し、フィンドレー市民の方々と本市教員が、1冊の洋書を読み、テーマに沿った議論を行ったものです。教員にとつては、英語を使って自分の考えを相手に伝える実践力を養う好機となりました。

次に、昨年度より開始した英語教育改革について紹介します。中学校学習指導要領の外国語科では、即興で話す力の育成が明示され、授業は英語で行うことを基本とす

っています。乗馬は二年目になり、やっと馬の気持ちが変わり始めました。水泳はインストラクターの指導を身に付けようと一所懸命。「男の料理教室」で覚えた料理を自宅で作り、家事に貢献しています。時々孫の世話を頼まれ、「爺爺」に変身することも。そして、読書、英会話等々……。

夏の冒険

朝霞班 磯 真砂子

今夏、三年ぶりに渡米した。しかも初めての一人旅で着くまでドキドキだった。アリゾナに住んでいる娘の手伝いと孫たちの面倒を見た二十日間。現地は八月から新年度で、市立小学校教員である娘の教室の準備を手伝った。新年度初日は始業式はなく、前日の夕方に保護者と児童が学校を訪れ、自分のクラスとその場所を確認し新担任と家族ごと話すオープンハウスという行事が組まれていた。日本とは違う新年度の迎え方を経験するなど、刺激的な旅であった。

書が結ぶ人の縁

川口班 福田 由美子

二〇二二年の夏もコロナ禍対応の毎日。続けてきた書の展覧会で自分の作品と向き合うことは書の

上達に不可欠と考え出かけました。職人さんの手で美しく表具された作品は、会場で私を待っているのです。会期中何度も会場に出かけて、懐しい方々との再会も嬉しいものです。小学校高学年の同級生も集合。クラス会が開催しにくい今、書道展でまた会えるねと。「次は、いつ? どこで?」書が大貫海浜学園生活を懐しむ友達も繋いでくれているのです。

町を離れて

草加班 武井 清

のんびりした生活との想いから移動を1時間、ICに近いこの地とした。自然に囲まれ自由な時間を満喫するはずが、隣まで数百m離れていてもお隣さんは存在する。近所づきあいも濃厚でトヨタを止めてまで「挨拶」してくれる。ランドセルを背負った子供もよく挨拶し、慌てて挨拶を返すこともある。生活感覚の違いからこちらが変人と思えることも。対人関係が苦手では生活が成り立たない。免許返納も考えてしまう。町を離れての暮らしも甘くない。

加齢と共生

藤・戸田班 石井 裕久

退職後、拠点校指導教員、部活

顧問として五年勤務。それから三年目を迎える今年、小学校で支援員の仕事を続けている。

昨年七月膝を負傷し、手術と一ヶ月の入院。幸い、二学期から仕事に復活。リハビリに励み、スキームもできた。

「カラダはまだ動ける」これが今の我が motto。

コロナ禍の中、健康に留意し、加齢に抵抗しつつ、共生の道を探り、趣味のドライブも楽しんでいく。

昭和の教師が令和に

川口班 日根野 真

コロナ禍でどこにも行かず家でゴロゴロしていたら、足腰が弱り、腹も出て体力低下を感じました。

ちょうど今年教員免許更新制度がなくなり、今一度教壇に立ちたいという気持ちが湧いてきて臨時的任用に応募しました。

現在東本郷小で理科の授業を担当していますが、何しろ十数年ぶりの授業に毎日悪戦苦闘しています。うれしいことに、同僚に鈴木日出彦先生がいて音楽を楽しそうに教えていらっしやるのが心の支えとなっております。

るとともに、「英語を使って何ができるようになるか」を明確にした授業実践が求められております。

そこで本市では、これまでに全国各地で高い成果を上げている「5ラウンドシステム」指導法を軸とした授業を全中学校で導入し、「自分の考えや思いを英語で表現できる生徒の育成」を目指して、現在取り組んでおります。※5ラウンドシステムは教科書を効果的に活用する指導法で、学習のねらいを変えながら教科書のストーリーを年間で5巡繰り返し学習します。

さらに、本指導法の効果検証を測る手立てとして、「GTFC研修事業」を開始し、今年度は第2学年の全生徒が受検します。生徒は、自分の英語運用能力を4技能ごとの点数で把握し、学習方法の改善を図ります。併せて、英語科教員に対しては、事前と事後の研修を実施することで、授業改善と指導力向上を図っております。

こうした事業を通して、本市の教員が日々授業改善に取り組むことで、児童生徒が、自分の考えや思いを英語で表現できる実践的な英語力を身につけ、グローバルに活躍する人材となりゆくことを期待し、今後も支援体制を充実して参りたいと考えております。

支部だより

第一回理事会開催さる

去る九月九日(金)第一回理事会が川口市立並木公民館に於いて開催された。冒頭に神山支部長より過日の県総会は会員・役員の協力により好評のうちに実施されたと感謝の挨拶があり、協議に移った。

- ① 県総会実施後の決算により総会予算の残額に余裕判明。そこで、特別積立金の残額を県総会特別配当金として各班に「会費納入会員数×千円で配当」との案を決定。
- ② 教育推進協議会については準備会の原案通りに実施と決定。



教育推進協議会提案者決まる

今年度も「現下教育の諸課題」をテーマに、次の方々から、各会を代表して、貴重な御提案がなされます。

- ①【自己肯定感向上の取組】
蕨市立東小学校
菅原 義裕 校長

- ②【小中一貫教育について】
志木市立宗岡第二中学校
中平 仁 校長

- ③【草加市におけるスクールソーシャルワーカーの取組について】
退職校長会草加班
寺島 高志 元校長
(和田悦男)

ご冥福をお祈りいたします
根岸 浩司様 (草加) 3/26 八十七歳
増田 積様 (草加) 9/16 八十七歳
(9/20現在)

班だより

蕨・戸田班 (和楽登会)

令和4年度は新会員二名の入会を得て会員八十名、森山征夫会長のもと活動を展開しています。総会は、コロナ感染予防の観点から紙上開催としました。

◎各種事業について

- 本年度の事業計画には、
・ 地域教育の推進協力
・ 夏季懇親会
・ 秋の散歩の会
・ 和楽登会研修旅行(二泊二日)
・ 新年懇親会
・ 春の散歩の会(都内の名所・旧跡めぐり)
・ 和楽登会ゴルフ(他班へも声掛け) 等々。

コロナ終息への期待と願いを込めて計画したところですが会員の「健康」を第一に考え、懇親会・秋の散歩・研修旅行は中止としました。会員の皆様には申し訳なく思っているところです。

◎会員の近況報告集を発行

支部会報『かけはし』が会員間の絆になっっていることに学び、今年度も『会員の近況報告集』を発行することとしました。

参考までに前年度の内容を紹介させていただきます。

☆コロナ禍に笑い葉や川柳(各配布物送付の際「和楽登会短信」を添付。そこで紹介した会員の川柳)、久々に声を出して笑いました。次作を楽しみにしています。

☆小学校で学校と地域を結ぶコーディネートをしています。雑草だらけで使われていない花壇を開墾。子どもたちと野菜の種や苗を植えて農作業体験をしています。
(文責 前田一男)

◆草加班

本年度の総会はコロナ禍のため、会則に従って、役員会を総会にかえ、紙面で会員からのご意見を聞くこととなった。また、役員改選はない年度となります。

全会員のご協力を得て、新会員五名を迎え、会員百四名で本年度スタートとなりました。

今後も草加市教育振興の寄与と共に、会員の親睦と健康維持増進を図って参ります。

◎草加市教育支援の継続

▼第三次教育振興基本計画の推進
会員の豊富な教育経験を活かした児童、生徒の学力向上へ支援の協力の継続。

▼草加寺子屋事業(土曜学習)への学習支援継続

小学校二十一校、年間十五回。

▼放課後児童クラブ事業等に協力
◎主な活動(コロナウィルス感染状況次第で変更有)

- ①役員会(四月八日、九月二十一日)
- ②クラブ活動ゴルフ開催・大会等へ参加。読書会・需学者・教育者・佐藤一斎「言志四録」勉強会
- ③行政への要望書の提出
- ④忘年会(四年十二月三日)
- ⑤現職・退職校長研究協議会(五年二月二十四日)



(文責 片岡敬一)

あとがき

北足立南部支部会報「かけはし」第六十一号に、ご多用の中、玉稿を賜りました各位に衷心から御礼申し上げます。

絵画・書等の県作品展が開催できない状況にありますので、「ホームページ作品展」のサイトを、新規開設することとなりました。

ホームページ上での写真公開となりますが、各班及び南部支部の担当者を通じてご応募ください。支部の担当者は幹事の松田裕之氏に当たっていただきます。

(羽富 正晃)